

グリーティング

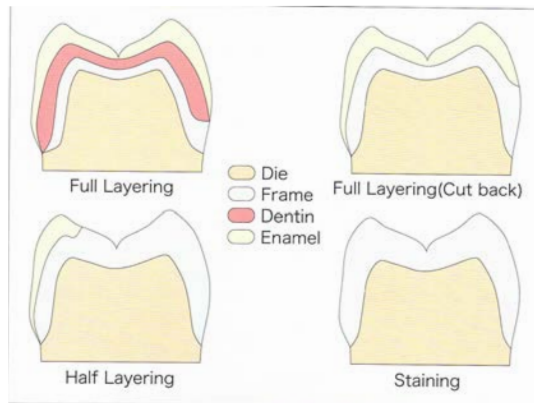


技工情報

◎補綴物が臼歯部での場合。

レイヤリング法での場合

どの種類の材料においても、対合歯との距離で約2mm、隣在歯の辺縁隆線の高さから約1mm程度のクリアランスが必要となります。



e.maxにおけるフレームデザイン

◎強度を考慮した材料(マテリアル)の選択について

単冠補修に関しては、どの材料においても適切なクリアランスを確保されていれば、それほど問題はありません。しかし、ブリッジでの修復の場合ではかなりの強度と適合制度が必要となってきます。

e.maxのフレームにおいては、連結冠やブリッジになると精度・強度が下がり、ブリッジのフレームとしての精度も残念ながら持ち合わせてはしません。ジルコニアであれば、強い負荷のかかる臼歯部においても強度的に十分に耐えられると考えられます。単冠の場合において0.4mmのフレームの厚みでも特に問題はありませんが、ブリッジになってくると、全体の厚みでも更にプラス0.2mm程度を追加し、さらに連結部では十分な強度を持たせる必要が出てきます。つまり、強度を与えるためにフレーム全体を厚くする必要が出てくるということになり、逆に陶材の築盛スペースが減ってしまい、色調に多少なりとも影響が出かねないということになってしまいます。